

自然豊かな場で夏休みを

ホームステイ事業

東北の子どもが満喫

東日本大震災で被災した子どもたちに、夏休みの時間を自然豊かな場所で楽しく過ごすてもらおうと「京都西本願寺参拝&各地ホームステイ事業」が、7月22日から本山と九州各地を会場に行われた。九州地方の本派寺院が中心となってホームステイを行う「『東北の子どもたちと共に歩む』全国プロジェクト」(佐々木龍明代表)が主催し、今年で7回目。福島県と宮城県に住む子どもと保護者51人が参加した。

この中、鹿児島県始良市の幽栖寺(藤谷亜

太可住職)には、福島県いわき市と福島市在住の2家族(子ども3人、保護者2人)が9日間ホームステイした。近くの里山で、青竹で箸とコップを作ったり、竹とんぼや水鉄砲で遊ぶなど自然の中で夏の楽しいひとときを過ごした(写真)。また、同寺で行われた子ども夏まつりにも参加し、地域の子どもたちと交流した。

塚原穂夏さん(小2)は「このお寺でのホームステイは3回目。今年も森の中や夏まつりでたくさん友達と遊べて楽しかった。また来年も参加したい」と笑みがこぼれた。母の友子さん(41)は「娘が『福島に帰ってからお礼の手紙を書きたい』と話してくれた。私たちを支えてくださっている周りの人たちへの感謝の気持ちを子どもに教えてもらえた。こうした活動は、これからも続けてほしい」と話した。

佐々木代表(64)は「東日本大震災から8年あまり。今も復興は終わっていない。東北の子どもたちが夏休みを楽しみ思い出を作ってもらえるよう、今後とも復興に向けて各寺院と協力しながら少しでも力になれるよう、この取り組みを継続していきたい」と語った。同事業のために、宗派は支援金で助成を行っている。



初日は、本山に集合して御影堂に参拝。翌日から福岡、大分、熊本、宮崎、鹿児島